

指定管理者による公の施設の管理運営状況(令和3年度分)

施設名	群馬県青少年会館	所管課	教育委員会生涯学習課
指定管理者名	(公財)群馬県青少年育成事業団	指定期間	5年
利用料金制	<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 一部導入 <input type="checkbox"/> なし		R2.4.1 ~ R7.3.31

※利用料金制とは施設の利用に係る料金を指定管理者の収入として収受させる制度。「一部導入」は利用料金制を導入しているが指定管理料を支出している施設

1 施設の概要

施設所在地	前橋市荒牧町2番地12
指定管理業務内容	・群馬県青少年会館の管理及び運営 ・青少年健全育成事業の実施

2 職員の状況(令和3年4月現在)※主に指定管理業務に従事する職員数

通常(フルタイム)の職員:	8人	合計:	9人
短時間雇用の職員:	1人		

3 収支の状況(令和3年度決算額)

収入		支出	
指定管理料	67,773,000	人件費	51,766,118
利用料収入	2,715,805	委託料	4,455,508
その他(事業参加者負担金収入)	70,500	光熱水費	4,472,813
自主事業収入	1,357,718	租税公課費	4,969,820
		その他(管理運営費等)	5,446,116
		自主事業支出	1,357,718
収入合計	71,917,023	支出合計	72,468,093

※指定管理者の指定管理業務等及び自主事業に係る収支を記入(指定管理者団体全体の収支ではない。)

4 利用の状況

	令和3年度(実績)	(参考)令和2年度(実績)	(参考)令和元年度(実績)
①年間利用者数(人)	14,467	14,873	42,419
②使用料収入(円) (県納付額)	-	-	-
③利用料収入(円) (指定管理者収受額)	2,715,805	3,339,835	10,558,000

5 施設における実施事業の状況 「※中止」…コロナ禍による中止

事業・イベント名	開催日	参加者数	内容	参加者の感想等
子どもふれあいワークショップ	2/26	14人	【目的】子どものいる場所に関わっている(または関心がある)青年を対象に、子どもへのよりよい関わり方や距離感、「遊び」に対する考え方を学び、地域活動に積極的に関わる人材を養成する。 【内容】指導力向上を目指した講義及びワークショップ等の演習、情報交換・交流	・コロナ禍で今までの方法が通用しないことが多くあり、「どのようにすればソーシャルディスタンスを保ちながら子どもたちに楽しい体験を提供できるか」と悩んでいたところ、実行可能なモデルを示していただいた。 ・遊ぶことや完成品だけではなく、作るまでのプロセスが大切だと知ることができた。

中学生・高校生交流ボランティア体験	※中止 体験実践場所として予定していたイベント(ホリデーインまえばし)が中止になったため。	—	【目的】ボランティアの入門として、中高生に対して近隣地域で開催されるイベントにボランティアとして関わる機会を提供し、ボランティアに関する知識や技能を高めると共に、実践活動を通じて参加者同士の交流を図る。 【内容】ボランティアに関する基礎的知識の習得、ボランティア体験の実施、参加生徒同士の交流等	—
体験活動・ボランティア活動支援センター	通年	5人	【目的】ボランティア活動を希望する青少年等とそれを必要とする学校や地域の団体や機関との連絡調整を行い、活動の機会を提供する。また、青少年及び指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、提供する。 【内容】ボランティア活動に関する情報収集と提供、学校や青少年団体との連絡調整	・【会館事業:宿題お助け隊参加者】事前研修でボランティアとしての立ち振る舞い、存在意義等様々な基本事項を知ることが出来た。 ※ボランティア活動の希望者に、会館の事業に参加してもらうことで、ボランティア活動の紹介とした。(他施設の活動を紹介した方については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業が中止となり、実現しなかった。)
ふれあい・ゆうあい交流フェスタ	※通年 (実行委員会を2回開催したが、コロナ感染拡大のため、計画内容をフェスタの実施から次年度以降のフェスタに向けての予告パネル製作に切り替えて実施)	15人	【目的】障がいのある人とない人がともにふれあい、ともに活動・交流する楽しさを体験するため、過去に交流フェスタに参加経験がある障がい児の支援団体、青少年団体、学校等がそれぞれの団体紹介と活動やフェスタに向けた練習の様子、発表等をまとめたパネルを作成する。 実行委員会ではwithコロナの交流フェスタ開催に向け、新しい形の体験・交流プログラムを模索する。 【内容】障がい児の活動を支援する団体等との連絡調整、実行委員会組織の設置、活動パネル等の資料作成	・新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度・3年度と2年にわたり、実行委員会で代替案を検討してきたが、フェスティバルを開催できない状況が続いている。 ・パネル展示の制作は、実行委員所属団体も含め、9団体が着手した(令和4年度展示予定) ・実行委員会では、団体ごとに新型コロナウイルス感染拡大防止対策などが様々であることや、開催方法を含め、多くの議論がなされた。
親子ふれあい体験	【Ⅰ およこ木工教室】 7/24 【Ⅱ 秋の工芸教室】 11/6	【Ⅰ およこ木工教室】 20人 【Ⅱ 秋の工芸教室】 24人	【目的】ものづくり等、親子共同作業を通して、親子や参加者同士のふれあいを深める。また、参加者同士のレクリエーションにより、こども同士、親同士の交流を図る。 【内容】親子でのものづくりとレクリエーション	【Ⅰ およこ木工教室】 ・普段、子どもと何かをする機会が少ないので、久しぶりに子どもの真剣な顔を見ることができて、とても楽しかった。 【Ⅱ 秋の工芸教室】 ・伝統文化にふれる等、現在の子どもたちが経験できないことを経験できる貴重な機会である。 ・コロナ禍で学校行事等もなくなり、思い出が少なかったのでよい一日になった。
国際交流推進事業 (世界の文化体験教室)	11/27	15人	【目的】小学生に対し、他国文化の魅力や違いを感じ取るとともに、自国を見つめ直す機会を提供する。また、外国人講師等とのふれあいや参加者同士の交流を深め、コミュニケーション力を高める。 【内容】外国人講師等による文化体験、参加者同士の交流プログラム	・アメリカの伝統行事・文化などを体験し、日本の文化とは違う楽しみを全身で感じ取ることができた。 ・新型コロナウイルスの影響により国際交流に対して消極的になっているように感じる。 ※一昨年度までは定員を大幅に上回る応募があったが、R3年度はかなり少なかった。(R3実績:定員12人に対し、申込人数22人)

高校生写真講座	10/23	29人	<p>【目的】デジタル写真に対する知識や技能を高める機会を高校生に提供し、班活動による写真撮影、及び組写真作品の制作や発表を通して、参加者同士の交流を図る。</p> <p>【内容】写真撮影を通しての交流、デジタルカメラの基礎知識・技術の習得、グループワークによる組写真の制作</p>	<p>・「後輩と一緒に交流しながら撮影が出来てよかった」「他校の作品を見て勉強になった」「いつも一緒に部活している仲間とたくさん考えて、たくさん撮れたのもっと仲良くなれた」といったコメントが多数見られた。</p> <p>・コロナ禍の実施であることから、班編制を各学校単位としたが、より交流を深める内容とするため、他校との交流を実施する内容を検討したい。</p>
青少年団体活動支援事業	【夏休み宿題お助け隊】 8/1	<p>【夏休み宿題お助け隊】 参加者24人 +ボランティア (群馬県青少年団体連絡協議会(以下「群青連協」という。)加盟団体、大学生、高校生等) 21人</p>	<p>【目的】各青少年団体との連携を深め、共催事業や連携事業を行い、各青少年団体の活性化や指導力向上を支援する。</p> <p>【内容】夏休み宿題お助け隊、青少年団体の情報収集、青少年団体が主催する事業の支援・協力、群青連協加盟団体について担当を配置</p>	<p>【夏休み宿題お助け隊】 ・群青連協が連携して小学生の夏休みの宿題支援を行った。また、体験活動としてバルーンアートでねずみを作成し、指導者・参加者間で交流を図った。 ・併せて大学生ボランティアを募集し、宿題支援・体験活動補助を行ってもらった。 ・参加児童のコメントでも、楽しく宿題に取り組めた等の意見が多い(23通中22通)</p>
ぐんま青少年ねっと	通年	<p>【学習情報コーナー利用者】 0名 ※当コーナーは新型コロナウイルス感染対策のため閉鎖中</p>	<p>【目的】インターネット等を活用して青少年健全育成に関する情報収集を行い、学校・青少年団体指導者及びボランティアに関心のある青少年に向け情報発信を行う。</p> <p>【内容】会館HPの日常管理、会館における青少年関係情報システムの運用、1階ロビーでのWi-Fi環境の提供</p>	<p>・会館ホームページの閲覧による施設利用及び主催事業の問い合わせが多く、インターネット活用の効果を感じられる。施設案内や事業内容を明確に伝えているため、対象者にとって有益な情報として活用されている。</p> <p>・Facebookの活用は、特に青年層に向けた情報において効果的である。Facebookの投稿で当館主催の事業情報を知り参加した方もいる。</p>
(参考)自主事業	青少年会館友の会育成事業	A 世界のことを学ぼう B レクリエーションと工作 C パソコンの正しい使い方を学ぼう		A 小学生40人 B " 42人 C " 38人
	青少年ふれあい居場所づくり事業	学習スペース開放		中学生、高校生、専門学校生等 計26人
	地域連携協力事業	・社会教育施設の現場学習(群馬大「生涯学習概論Ⅰ」) ・赤城フェスタへのブース出店 ・ライオンズクエストワークショップ(教職員に企業の役員が加わり、模擬授業計画・立案・実践等を実施)		・大学生18名 ・ブース参加者30人程度 ・教員等のべ24名/2日
	財団創立40周年記念事業	・記念誌発行 ・記念式典(1/22)		・記念式典:県議、青少年団体関係者等 計44人

6 利用者満足度調査等の結果及び対応状況

①施設利用

(実施期間)
通年で実施した。

(実施方法・回収率等)
施設利用団体責任者へアンケート調査を実施した。

(項目別回答集計)

- ▼性別:男性42% 女性58% 未回答0%
- ▼年代:高校生以下6% 大学生2% 20代5% 30代14% 40代27% 50代31% 60代以上15% 未回答0%
- ▼地域:前橋市内53% 市外28% 県外18% 未回答1%
- ▼利用頻度:初めて16% 週に数回1% 月に数回31% 年に数回43% ほとんど利用しない5% 未回答4%
- ▼職員の対応:満足84% まあ満足14% 普通2% やや不満0% 不満0% 未回答0%
- ▼料金設定:満足56% まあ満足17% 普通12% やや不満1% 不満13% 未回答1%
- ▼利用時間の設定:満足82% まあ満足11% 普通7% やや不満0% 不満0% 未回答0%
- ▼照明の明るさ:満足81% まあ満足12% 普通5% やや不満1% 不満0% 未回答1%
- ▼清潔度:満足70% まあ満足24% 普通6% やや不満0% 不満0% 未回答0%
- ▼使いやすさ:満足68% まあ満足26% 普通6% やや不満0% 不満0% 未回答0%
- ▼案内表示の分かりやすさ:満足80% まあ満足12% 普通8% やや不満0% 不満0% 未回答0%
- ▼安全性:満足71% まあ満足24% 普通5% やや不満0% 不満0% 未回答0%
- ▼総合的な印象:満足78% まあ満足18% 普通4% やや不満0% 不満0% わからない0% 未回答0%
- ▼交通手段:自動車86%、公共交通機関2%、自転車2%、徒歩2%、その他2%、未回答6%
- ▼利用する際の手続き・申請方法について:便利75%、普通21%、不便0%、未回答4%
- ▼また利用したいか:利用したい99%、どちらともいえない0%、利用しない0%、未回答1%

(利用者からの意見等)

- ・職員の方がとても感じがよかった。
- ・電話予約や受付担当の方が、とても親切でありがたかった。
- ・オリエンテーションで、とても丁寧に教えてもらった。
- ・なかなかピアノが置いてある練習場所がないのでありがたい。

- ・費用がもう少し安いと助かります。
- ・支払方法が、現金持参だけでなく引き落としや振り込みがあるとありがたい。

(調査結果分析)

総合的な印象では、「満足」と「まあ満足」を合わせて96%、さらに「また利用したい」との回答が99%と高く、利用者から満足度の高い評価を得ている。

(調査結果への対応状況)

- (要望)エアコンの効きが悪い。
- (対応)今年度、県予算で本館空調工事が計画されている。
- (要望)会議室で、インターネットが使えるとより便利です。
- (対応)青少年ねっとで対応できるかどうか、業者に見積もりを依頼している。金額によっては、県に相談しながら進めていきたい。
- (要望)廊下の照明がやや暗いと感じた。
- (対応)令和2年度、県予算で本館1階ロビー照明LED化工事を実施した。以前より大変明るくなり、また省エネにも繋がった。本館2階、3階については、引き続き検討していく。
- (要望)プレイホール鏡の扉3番目のすべりが悪いので直してほしい。
- (対応)職員が扉の滑車を交換対応をした。

②青少年健全育成事業

(実施期間)

事業後にアンケートを実施した。

(実施方法・回収率等)

事業終了時にアンケート用紙を配布して記入してもらう。回収率:100%

(項目別回答集計)

各事業毎に、感想・参加のきっかけ・要望等についての設問を設けて集計し、結果分析を行っている。

(利用者からの意見等)

- ・コロナ禍で今までの方法が通用しないことが多くあり、「どのようにすればソーシャルディスタンスを保ちながら子ども達に楽しい体験を提供できるのか」と悩んでいたところ、実行可能なモデルを示していただいた。(子どもふれあいワークショップ)
- ・普段子どもと何かをする機会が少ないので、久しぶりに子どもの真剣な顔を見ることができて、とても楽しかった。(親子ふれあい体験教室Ⅰ)
- ・普段、体験する機会が少ない工芸(陶芸)であり、子どもにとってよい経験になった。(親子ふれあい体験教室Ⅱ)
- ・その国の人が講師をしてくれたり、実際にゲームなどを体験することで、より分かりやすく、興味がわいた。このような教室があったら、参加したい。(国際交流推進事業)
- ・先輩から教えてもらった。他校の作品を見て勉強になった。先生の評価がわかりやすかった。明るさに対応させた設定の勉強になった等の意見が多くあった。(高校生写真講座)
- ・「楽しかった。」「楽しく勉強できた。」等の感想が71%、「おねえさんにいっぱいわからないところをおしえてもらった。」「勉強ができなかったけど、お兄さんたちがおしえてくれたからすすんだ。」「あさっての分までおわってよかった。」等、支援してもらって学習が進んだことを喜んでる感想が、21%あった。(夏休み宿題お助け隊)

(調査結果分析)

- ・上記の「利用者からの意見等」にあるように、どの事業に対しても参加者の満足度が高いことが伺える。
- ・アンケートの実施結果を基に分析し、次年度の事業内容に反映させるようにしている。

(調査結果への対応状況)

- ・子どもふれあいワークショップ:「少ない人数で、子ども達を指導するのは大変」(アンケートより)という意見を反映させ、少ない指導者で多くの子ども達を楽しませることができる内容を盛り込んだプログラムにした。
- ・高校生写真講座: 一日開催2年目、限られたスケジュールの中で組写真作成時間を確保するため、弁当を短時間で手軽に食べられるメニューに変更したり、昼食・休憩時間から組写真開始の時刻を班ごとに決めさせる等の対応を取った。

(その他苦情・要望等及びその対応状況)

なし

7 管理運営状況の評価 (A:優良、B:良好、C:要努力、D:要改善)

評価項目	総合評価	評価の考え方	評価できる事項及び改善すべき課題
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づき青少年健全育成事業に取り組み、利用者の満足度も高く、良好な管理運営状況である。 ・コロナ禍以前に設定した年間延べ利用者目標を下回るだけでなく、コロナウイルス感染拡大に伴う閉館を実施した前年度対比でも利用者が減少している点について、コロナ禍だけをその理由とすることはできない。 ・今一度、青少年会館という施設に求められる役割・ニーズに立ち戻り、さらなる経営改善・利用者確保に努めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■評価できる事項 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進む中、施設の維持管理に努め、清潔で快適な状態を維持している。 ・利用者アンケートにおいて職員の対応への評価が高い(満足:84%)。「また利用したい」との回答率は99%にのぼる。 ■改善すべき課題 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の利用者数は、年間延べ利用者目標45,000人を下回るとともに、コロナウイルス感染拡大に伴う閉館(約1ヶ月半)を実施した前年度対比でも約3%減となっている。

(個別項目ごとの評価)

評価項目	評価
平等利用の確保	A
サービスの提供内容	B
管理費用の執行状況	A
管理運営体制	B
法令遵守等	A
労働条件評価の実施	無

評価項目	評価
利用者対応	A
地域貢献	B
環境問題への取組	B
防災対策及び緊急時の対応	A
個人情報保護及び情報公開	A

(参考) 指定管理者の自己評価及び評価委員会の年度評価結果

	総合 評価	評価の考え方
指定管理者の 自己評価	A	新型コロナウイルス感染防止対策や警戒度等による中止の判断基準等を明確にして、各事業の計画や準備を行ったため、ほとんどの事業を実施できた。
評価委員会の 年度評価	B	県民にとって、地域にとって無くてはならない存在になっているか疑問がある。柔軟な発想と工夫によりWithコロナ時代に合った事業の充実を目指す必要がある。